

●胃がんとはどんな病気？

胃は、食道と腸をつないでいる袋状の臓器です。主な働きとしては、食べたものをためておく、食べたものを消化する、消化された食べものを少しずつ腸に送り出す、ビタミン B12 の吸収に必要な糖タンパク質を分泌する、などがあります。



胃がんは、胃にできるがんを総称したもので、主に胃の壁の最も内側にある粘膜内の細胞が、何らかの原因でがん細胞になって無秩序に増殖を繰り返すことで生じます。胃がん検診などで見つけれられる大きさになるまでには、何年もかかるといわれています。また、特殊な胃がんとして、主に胃壁の中で広がって粘膜の表面にはあまり現れない「スキルス胃がん」もあります。

日本では肺がん、大腸がんに次ぎ、死亡数の多いがんです。2:1の割合で男性に多く、男女とも 60 代が発症のピークです。

●早い段階での自覚症状はほとんどありません

胃がんの自覚症状は、早い段階で出現することは少なく、がんが進行した場合でも、ほとんどみられないこともあります。がんができた部位によっては、食べ物が入っていきにくいために、または、食べ物が胃の中に滞るために、胃の痛みや不快感、胸やけ、吐き気、食欲不振などの症状が現れることがありますが、これらは胃がん特有の症状ではなく、胃炎や胃潰瘍(いかいよう)の場合でも起こります。また、進行した胃がんの症状としては、めまいや息切れ、食後にものがつかえる、吐血や黒色便などがあります。

胃がんに伴う主な症状



胃の痛み 胃の不快感 胸やけ 食欲不振 吐き気 食べ物のつかえ

(末期ではめまい 息切れ 吐血 黒色便 体重が減る おなかにしこり)



●どんな人がなりやすい？

胃がんは、日本で一番罹患数が多いがんです。男性では 1 番目に多く、およそ 9 人に 1 人、女性では 3 番目に多く、およそ 18 人に 1 人が、一生のうちに胃がんと診断されています。胃がんは 50 歳前後から、特に男性で罹患率が高くなります。

最近の研究から、日本人の胃がんの 99% にヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)が関与していることがわかってきました。ピロリ菌は胃の粘膜に生息している細菌です。口から感染するので一昔前の不衛生な

環境下ではほとんどの人がピロリ菌の保菌者でしたが、衛生状態が改善した今では、がん年齢である 40 代の感染率が 20~25% にまで下がっています。ピロリ菌に感染すると胃粘膜が炎症を起こし、胃の痛みや不快感、吐き気を伴う慢性胃炎や胃粘膜の組織が消えてしまう萎縮性胃炎へと進行していきます。萎縮性胃炎は「前がん状態」と呼ばれ、胃がんの発症リスクがとても高い状態です。



●胃がん予防には「除菌」と「減塩」と「新鮮な野菜や果物」

ピロリ菌の感染が明らかになった場合、ピロリ菌の除菌治療で胃がんの発症リスクを軽減することが有効です。また、国内外の様々な研究から、ピロリ菌に荒らされた胃粘膜をさらに傷つける要因のひとつに「塩」があることがわかってきました。食事全体の塩分量を減らし、タラコやイクラなど高濃度の塩で保存している食品を食べる回数を減らしましょう。また、国立がん研究センターがん予防・検診センターによると、新鮮な野菜や果物をほとんど食べない人に比べて、週1日以上食べる人は胃がんの発症率が低いことがわかっています。



●男女ともに、40歳以上は年に1回、胃がん検診を受けましょう

早期胃がんは、多くの患者さんが検診によって発見されています。症状の有無に関わらず、定期的に検診を受けることが、早期発見のために最も重要なことです。胃がんの検診で、“効果がある”と判定されている検査は、「胃X線検査」と「胃内視鏡検査」です。そのほか血液検査等による「ペプシノゲン検査」、「ヘリコバクターピロリ菌抗体検査」などがあります。

1) 胃 X 線検査

胃 X 線検査は、バリウム(造影剤)と発泡剤(胃をふくらませる薬)をのみ、胃の中の粘膜を観察する検査です。胃がんを見つけることが目的ですが、良性の病気である潰瘍やポリープも発見されます。



2) 胃内視鏡検査

胃の中を内視鏡で直接観察する検査です。内視鏡を口や鼻から挿入するため、検査の準備として、喉や鼻の麻酔、鎮静剤や鎮痛剤などの注射を用いることがあります。内視鏡検査は、胃の中の小さな病変を直接見つけることが可能で、胃 X 線検査でがんなどが疑われた場合でも、確定診断をつけるための精密検査として行われます。



3) ペプシノゲン検査

血液検査によって、胃粘膜の萎縮度(いしゅくど)を調べます。胃がんを直接見つけるための検査ではありませんが、一部の胃がんは萎縮の進んだ粘膜から発生することがあるため、この検査をきっかけにして胃がんが発見されることがあります。



4) ヘリコバクターピロリ菌抗体検査

血液検査などによって、ヘリコバクターピロリ菌に感染している、または、感染したことがあるかどうかを調べることができます。

当施設でできる肺関連のオプション検査

血液ピロリ菌検査	ピロリ菌に感染しているか調べます	¥1,600[税別]
ペプシノゲン検査	胃粘膜の萎縮の可能性を調べます	¥3,000[税別]
胃がん血液検査セット	血液ピロリ菌検査とペプシノゲン検査のセット	¥4,000[税別]
アミノインデックス検査	血液中のアミノ酸濃度を測定し、がんのリスクを調べます	¥25,000[税別]
マイクロアレイ血液検査	がんなどの異物に対する体の反応を遺伝子レベルで測定	¥90,000[税別]

バックナンバーはホームページよりダウンロードできます。

定期配信を希望される方や内容についてのご質問がございましたらお気軽にお問い合わせください。